

※1 市街地の注意点

■アンダーパスの浸水 

アンダーパスとは、鉄道や道路などの下を通過するため、周辺の地面よりも低くなっている道路のことをいいます。地形的に雨水が集中しやすい構造となっています。局所的で短時間の強雨により、アンダーパス浸水による車両の水没も多発しています。大雨時の通行は迂回するなどの危険回避を優先しましょう。もし、車両が水没し車から離れるときは、カギをつけたままにしましょう。



■地下空間での浸水に注意!

市街地には、地下通路、地下駐車場などがあります。地下は水が流れ込みやすく浸水の危険が高い場所です。大雨や洪水時は注意が必要です。



出入口の外側からの浸水の場合、水圧でドアが開けないことがあります。

※2 河川周辺の注意点

大雨のときなど、川や用水路の様子が気になっても、決して見に行かないでください。様子を見に行くと被災することがよくあります。河川の様子は自治体などがインターネットでライブカメラや、河川の水位をリアルタイムで公開しているところもあります。様子を見に行かずこれらの媒体より情報を把握するようにしましょう。

大雨が降り続き、雨水の吐出口(排出口)より河川の水位が高くなると排水が困難となり内水被害が拡大する恐れもあります。大雨が長引きそうな場合は、「洪水ハザードマップ」も確認して下さい。

不安に感じたときは、速やかに避難を開始しましょう。

河川のいろいろな情報も確認しましょう!

福島市洪水ハザードマップ

<http://www.city.fukushima.fukushima.jp/kasen-kanri/bosai/bosaikiki/hazard/kasen12032207.html>

国土交通省 川の防災情報

<https://www.river.go.jp/>

福島河川国道事務所 LIVEあぶくまがわ

http://www.thr.mlit.go.jp/fukushima/abukuma_live/live07.html

福島県 河川流域総合情報システム

<http://kaseninf.pref.fukushima.jp/gis>






※3 山間部の注意点

局所的で短期間の強雨でも土砂災害に注意しましょう

勾配の急な山や崖の多い日本は、土砂災害が発生しやすい地形的な特徴をもっています。危険を察知するためには、事前に土砂災害に関する正しい知識と、自分が住んでいる土地について知っておくことが大切です。

■土砂災害による被害の種類

がけ崩れ	地すべり	土石流
<p>急傾斜地</p> 		
<p>がけ崩れは、急な斜面が突然崩れ落ちる災害で、傾きが30度以上のがけは要注意です。</p>	<p>地すべりは、割合ゆるい傾きの斜面で、地面が大きなかたまりのまま、ゆっくりすべりますが、突然一気に数メートル動くこともあります。</p>	<p>土石流は、大雨などで山がくずれ、くずれた土砂が水と混じってどろどろになり、通りにある岩や木を巻き込んで津波のように流れてくるものです。</p>
<p>特徴</p> <p>がけ崩れは、大雨や長雨、雪解け水が、地面に浸み込んだことが原因で起きたり、地震の揺れによって起きます。前ぶれがあまりなく、突然、大量に崩れる特徴があります。危ないと思ったらできるだけ早く避難することが大切です。</p>	<p>特徴</p> <p>何層にも積み重なった地層の、水を通しにくい粘土質などの層に浸み込んだ雨水や雪解け水が、そこから上の地面を浮きあげ、すべりだすのが主な原因です。地すべりは、広範囲で起きるため、家や道路、鉄道などが一度に大きな被害を受けます。</p>	<p>特徴</p> <p>土石流は、大きな石や岩を先頭に、街中を走る自動車と同じくらいのスピード(40~50km/h)で、家や田畑を押しつぶしながら流れます。山のふもと扇状地や、谷の出口では、特に注意が必要です。</p>
<p>前ぶれ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●斜面にはらみ、亀裂ができた。 ●小石が斜面から落ちてきた。 ●がけから水が吹き出てきた。 	<p>前ぶれ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地鳴りがする。 ●沢水や井戸水に濁りがある。 ●家や擁壁に亀裂が入る。 	<p>前ぶれ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●山鳴りがする。 ●川の水が急に少なくなった、濁った。 ●異様な臭いがする。

土砂災害は突発的に発生し、すさまじい破壊力で一瞬にして多くの生命や財産を奪っていきます。

土砂災害の恐れのある危険箇所は全国に約52万箇所もあり、年間約1,000件の土砂災害が発生しています。

福島市内にも多くの危険箇所が存在します。また、山間部だけでなく、新たな宅地開発が進む市街地近郊でも土砂災害の発生が懸念されています。

